

2023年度+α

スポーツマネジメントコース 活動紹介



目次

授業紹介(スポーツ組織論):ソニーのスポーツビジネス	3
まつばら阪南バスケット交流会	5
サイクリングツアー in 淡路島	7
ヨドコウ桜スタジアムでのフィールドリサーチ	9
まつばら阪南“逃走中”	11
まつばら阪南モルックフェスティバル	13
政策コンテスト「君も府知事にならないか？」	15
第11回 姫ボタル瀬川平トレイルラン	17
まつばら阪南サッカー観戦ツアー	19
まつばら阪南水遊びタイム	21
Jリーグが世界にチャレンジ！ フィールドリサーチ@国立競技場	23
まつばら阪南サマーキャンプ	25
まつばら阪南いきいきマルシェ	27
阪南ナイト in 北海道栗山町	29

オリックス・バファローズ2軍戦でのフィールドリサーチ	31
まつばら阪南コマなし自転車教室	33
大阪まつばら名物「かも焼き」の販売	35
まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル	37
リノベーションキャンプ in 淡路島	39
オリックス・バファローズ主催のプレゼン大会	41
チャレンジド・サッカー教室 in 高見ノ里グラウンド	43
ミズノ流忍者学校とテントウサウナ体験会	45
まつばら阪南障がい者サッカーフェスティバル	47
えらぶ阪南農業合宿 in 沖永良部島	49
北海道栗山町でのフィールドリサーチ	51
サッカー部女子チーム記念ゲーム	53
サッカーC級指導者 × トップレフェリー 副審トレーニング	55
阪南大学スポーツマネジメント部とは？	57
一般社団法人まつばら阪南大学スポーツクラブとは？	59

授業紹介:スポーツ組織論 ソニーのスポーツビジネス ～ホークアイがもたらすイノベーション～

スポーツ組織論の授業では、毎回スポーツ界のプロフェッショナルをゲスト講師に呼んでいます。最新のプロスポーツの潮流と、スポーツ現場の最前線で働く方々の考え方を知ることができます。その一例をご紹介します。

日本が世界に誇るソニー、そんなソニーがスポーツ界においてどのようなビジネスを展開し、今後何を目指していくのか。ソニーのスポーツビジネスの全体像とホーク・アイのビデオリプレイ技術を導入するサッカーにおけるVARの実際の現場についてご説明いただきました。

学生コメント①

私は普段からスポーツ観戦をします。その際にビデオ判定という言葉をよく耳にします。審判を補助するシステムということは理解していました。ですがクリケットの試合を元に作られたことは知りませんでした。そして様々なスポーツに活用され、試合の「公平性」が保たれていることが素晴らしいと感じました。にわかファンの人たちに興味を持ってもらうためにアニメと連動した映像を作られていました。ホークアイは審判の補助だけでなく、新たなファン層を増やす取り組みや選手のパフォーマンスの向上を補助することもできることから、今後球技以外のスポーツにも適用されるとおもしろいなと思いました。

学生コメント②

今日の講義を聞いてホークアイのシステムを使い、人とのコミュニケーションをとることで、スポーツの正確な判定をサポートできるようになることがわかりました。トラッキング技術が進化することで、ボール、プレイヤーの位置、骨格情報などが分かるようになっていて、そのデータを元に自分のプレーを確認することができたりするのですごいなと思いました。

レゴやアニメーションに映像を変えて、観客が動物だったり、ゴールをしたら爆発したりなど現実のスポーツではありえないことが映像では可能になっていて、見ていておもしろいなと思いました。



まつばら阪南バスケ交流会を開催しました！

荒井 璃桜(流通学部2年生)

2023年5月14日に阪南大学で「まつばら阪南バスケ交流会」を開催しました。このイベントは、私たち阪南大生と関西女子学生バスケットボール連盟との共催という形で運営して、他大学の学生も含め約30名が参加してくださいました。

今回は、男子部門と女子部門に分けて行いました。男子部門は2チームしか作ることが出来なかったのですが、前回の優勝チームの留学生チームのおかげもあって、1つ1つの試合が盛り上がっていました。

女子部門は学連の学生にも参加してもらい3チームで総当たり戦を行い、その後に阪南大生と学連の学生をミックスしてチームを作り、再び総当たり戦を行いました。誰かが点を取るとチームに関係なく盛り上がっており、とても良い雰囲気バスケを楽しむことができました。

年度が変わり、初めてのバスケットイベントを行い、新しく参加してくれた方が沢山いてくれたおかげで阪南大生同士の交流を深めることが出来たと感じます。また、他大学の学生にも参加してもらったので大学を越えた交流をすることが出来たと実感しています。

しかし、試合を始める時間に至るまでの準備に時間がかかってしまったり、試合間の時間を少し長くしてしまったなど、司会をしてみて課題も残るイベントでした。次回は、参加者がメリハリをつけれるように指示を出して、臨機応変に対応ができるように今回の反省点を踏まえて、参加者が充実したイベントになるようにしたいです。



Jリーグの「作品」を観てみよう！ ～ヨドコウ桜スタジアムでのフィールドワーク～

2023年5月28日(日)明治安田生命J1リーグ第15節セレッソ大阪対横浜FC戦において、フィールドワークを行いました。試合観戦の前にはセレッソ大阪の運営、ホームタウングループの担当者にご協力いただき、「ボッチャ体験コーナー」と堺市消防局による「AED・胸骨圧迫体験会 & 胸骨圧迫チャレンジゲーム」をお手伝いさせていただきました。その様子と学生のコメントをご紹介します。

太田 莉生(流通学部2年)

子どもの時からJリーグのスタジアムに通っていましたが、今回のゼミ活動を通して見方が変わったように感じました。単純に試合を楽しみに行っていた子ども時代から、スタジアムの様々な所に目がいくようになったように思います。もちろん目立つのは選手ですが、試合を支える人、盛り上げる人がいるからこそであったように振り返ります。地元クラブとは違って、女性のファンの方が多かったように感じたことが初めてのヨドコウの印象です。またピッチがとても見やすく、思わず見入ってしまうようなスタジアムの造りでした。まさに、教室ではなく外に出なければ感じられないこと、であったと思います。とても楽しかったです。色々と迷惑をおかけすると思いますが、これからもよろしくお願いいたします！



サイクリングツアー in 淡路島を開催しました！

大柱 海斗(流通学部2年生)

2023年5月27, 28日に兵庫県淡路市で私たちが企画した「サイクリングツアーin淡路島」を実施しました。流通学部と国際観光学部の2～4年生の14名が参加してくれました。半数の学生がロードバイク初心者でしたがレンタルショップ「シクリズムアワジ」のスタッフの方の丁寧な説明を受けたことで、安心して乗ることができました。

初日の午前中は、シクリズムから約18km離れた所にある「あっくんバーガー」を目指しました。この時はサイクリングツアーがはじまったばかりだったので、みんな笑顔で元気に自転車をこいでました。午後からは宿に向けて約20km移動しました。

今回は、廃校をリノベーションした「Reベース369」に泊まって、夜はBBQで盛り上がりました。この夕食に、施設を運営している株式会社須磨北造園土木の席定社長にも参加して頂き、食事をしながら人生のお話や仕事のお話を聞かせて頂き、大変勉強になりました。

2日目はお昼に「魚竹鮮魚店やけんど～海鮮どんや」にて海鮮丼や天丼を頂きました。どのメニューもとても美味しく、お昼からの活力になりました。午後は、少し疲れが見え始めましたが、ゴールに向けて全員で声をかけ助け合いながら海沿いの道を自転車で進みました。

今回、初めてイベントの企画・運営の担当になり、常に全員が楽しむためにはどうしたらいいか、スケジュール通りに動けるか考えました。準備期間もツアー中もたくさん不安を感じましたが、無事に終わることができてよかったです。終わってみれば参加者から「学年関係なく喋ることができ仲が深まった」や「全体的に楽しめた」という声を頂けたので、企画段階で考えていた「全員に楽しんでもらう」という目標とが達成できてよかったなと思いました。これからも他のイベントにも積極的に参加し、多くの経験を積んでいきたいと思います。



まっばら阪南“逃走中”を開催しました！

児玉 花林(流通学部2年生)

2023年6月3日に松原市立三宅小学校で小学生を対象とした「逃走中イベント」が開催されました。本イベントは松原青年会議所の方々が子どもたちに楽しんでもらおうと企画したイベントです。前日は、記録的な大雨でしたが、当日は快晴に恵まれ約120人の子どもたちが参加してくれました。今回のイベントでは、「捕まった参加者を救出せよ」や「捕まった校長先生を救出せよ」、「コスプレハンター放出」、「アイテムを入手せよ」といったミッションなどがあり、大変盛り上がりました。

その中でも、ハンター放出のシーンが大変盛り上がりました。子どもへのルール説明終了後、急にハンターの音楽が流れたと同時に、テントのブルーシートが剥がされ、テント内に待機していたハンター23人が仁王立ちしている姿を見た子どもたちは大はしゃぎでした。

私は「アイテムを入手せよ」の企画を担当をさせて頂きました。アイテムは、牢屋にいる友達を救出できる「お友達救出券」と、追いかけている際にハンターをストップさせることができる「ハンターストップ券」を作成しました。これらを逃走エリアに隠して、見つけてもらいアイテムを使ってもらう企画でした。前日まで、子どもたちが逃げることに夢中になり、アイテムを使うことはあまりないのではと不安でしたが、当日は逃走中が始まると同時にアイテムを見つけ出し、隠していたほとんどのアイテムを使ってくれました。

このような素晴らしいイベントに携われたことを大変嬉しく感じております。これからも様々なイベントに積極的に参加し、多くのスキルを身につけていきたいと思います。



まつばら阪南モルックフェスティバルを開催しました！

宮武 宏次(流通学部4年生)

2023年6月4日に阪南大学で「まつばら阪南モルックフェスティバル」を開催しました。このイベントは松原市民の子供23名とその保護者21名、合計44名が参加してくださいました。モルックとは、「モルック」という木の棒を投げて、「スキttl」と呼ばれるピン12本を倒して、点数を競うゲームです。

今回のイベントは、学生スタッフ16名が参加し、低学年部門と高学年部門に分けて9ブースを設置、学生スタッフ1名が1ブースを担当する形で運営しました。試合は、各ブースで2回実施するごとに対戦相手を入れ替えて、それを3回繰り返し、色々な参加者とスタッフが交流できる機会をつくりました。

他にも、自主的に未就学児とボールやモルックで遊ぶスタッフもいて、試合に参加しない子どももとても楽しく遊んでいる姿が見られました。イベントの後の打ち合わせでは、次回からモルックのできない小さな子ども向けの特別ブースを用意しよう、という案が出ました。

また、保護者に記入して頂いたアンケートでは、回答者全員が「非常に満足した」、「満足した」と回答してくださいました。また、次回も「参加したい」や「もっと体を動かす系のイベントをしてほしい」などの声がありました。この声に応えるために、これからも子供が楽しく体を動かせる機会を提供していきたいです。



政策コンテスト「君も府知事にならないか？」に参加しました！

田中 智也(流通学部3年生)

2023年6月18日、公益社団法人日本青年会議所の近畿地区大阪ブロック協議会が主催した政策コンテスト「君も府知事にならないか？～Dreams Come True Osaka～」に参加しました。私たちは、これまで流通学部のスポーツマネジメントコースで取り組んできたことを基に「持続可能な循環型スポーツクラブを利用して大阪府民の活力向上プログラム」というタイトルでプレゼンをしました。

結果は、7チーム中2位にあたる優秀賞と、ブロック協議会の会長賞の2つを受賞することができました。会場には多くの青年会議所の方やその他の関係者、学生が来られていて、緊張と、このような場で発表できる興奮で脈が上がっていました。

今回の政策コンテストでは、私たちのサポートをしてくださった多くの青年会議所の方や、コンテスト当日にコミュニケーションをとった同世代の発表者など、多くの人と関わることができました。私たちとは違った視点や考え方を持っているので、新たな気付きがあり、得られるものが多かったです。

また、特別審査員の古川会長(近畿地区大阪ブロック協議会)からは、プレゼンに対する評価コメントをその場で頂くことができました。そのコメントの中で特に印象に残っているのが、芦名祐介さんがおっしゃっていた「アイデアと行動力はセット」ということです。今後は、私たちが提案したアイデアを行動に移し、大阪府民の活力向上に繋げていきたいです。



第11回姫ボタル瀬川平トレイルランに 運営スタッフとして参加しました！

東谷 悠司(流通学部3年生)

2023年7月2日に兵庫県の香美町で開催された「姫ボタル瀬川平トレイルラン」に、運営スタッフとして学生29名教員3名が参加しました。大会前日の7月1日から現地に入り、実行委員会のメンバーと協力して、参加賞の封入や応援メッセージカードの作成、会場設営を行いました。

大会当日は、スタート・ゴール地点でアンケートをとったり、ゴールテープを担当するチームや、阪南エイド(ランナーが飲食物を補給する場所)チームなどに分かれて大会の運営をサポートしました。私は、スタート・ゴール地点での仕事を担っていたので、ゴール前でランナーの達成感溢れる顔を見ることができ沢山の元気をもらうことができました。

また、私は学生スタッフのリーダーとして、メンバーが1つの仕事に飽きないように適当なタイミングで役割を変えるよう工夫しました。それによって、スタート・ゴール地点を担当した学生全員が色々な仕事を担当することができました。この経験を通して、計画的にチームで仕事をやり遂げるために、リーダーが全ての仕事内容を把握しながら適切な時間配分で役割を入れ替えることの重要性を学びました。

今後は、1月下旬頃に香美町で今回の大会の成果報告会を開催する予定になっています。ただ夏のイベントに参加して終わらないように、報告会に向けて参加者アンケートの結果や学生スタッフの意見を分析してPDCAサイクルを回し、さらに良い大会にしていきたいです。



まつばら阪南サッカー観戦ツアーを開催しました！

東 未悠(流通学部2年生)

2023年7月15日に実施したまつばら阪南サッカー観戦ツアーに向けて、私は参加者が着る阪南スポーツ応援Tシャツのデザインを担当しました。初めての経験だったので、どんなデザインにするか、どのフォントにするか、色はどうするかなど、考えるのがかなり難しかったです。早乙女先生や、プロのデザイナーの方との連絡を何度も重ね、デザインを完成させることができました。

ヤンマースタジアム長居で開催された関西学生サッカーリーグ戦の阪南大学vs関西学院大学との試合で初めて私がデザインしたTシャツが配られました。選手や学生スタッフ、阪南大生や教職員などたくさんの方々がTシャツを着てくれているのを見たり、同じTシャツを着て一緒に応援できたことはすごく嬉しかったです。

私はファッションやデザインに興味があり、流通学部ではブランド・マーケティングコースに所属しています。今回の活動で服をデザインしているデザイナーさんの気持ちも少しわかった気がして、すごく良い経験になったと感じています。阪南大学の流通学部だからこそ、今回のようにスポーツとファッションを融合させた取り組みができたのではないかなと思いました。この経験を今後の学生生活にも活かしていきたいと思います。



まつばら阪南水遊びタイムを開催しました！

前田 純(流通学部3年生)

2023年7月16日に阪南大学で「まつばら阪南水遊びタイム」を開催し、68名の未就学児と小学生、保護者48名が参加してくれました。今回のイベントには学生スタッフ26名が運営として仕事をこなしながら、子どもたちと一緒に水を掛け合い楽しむことが出来ました。

去年は、自由に水を掛け合うシンプルなイベントでしたが、今年は未就学児と低学年グループと高学年グループに分けて、水を使って子どもが楽しめる遊びを考えました。例えば、水風船を使った的当てや、学生が頭に金魚すくいを使うポイをつけて逃げて、子どもがそれを水で破る鬼ごっこなどを実施しました。子どもたちは全力で遊んでいて各所から笑い声が聞こえてきて、どこにいてもみんなが楽しんでいることが伝わってきました。

このような遊びを考える上で大切にすることは「仲間と協力して何かを成し遂げる」「シンプルなルール」「安全」です。これによって、保護者が安心して見守ることができる環境の中で子どもに皆で身体を動かす楽しさを伝えることができました。

今回のような子ども向けのイベントでは、参加者に楽しんでもらうことが大事になりますが、一時的に子どもを預かるため重要なのは「安全」です。これからも安全第一で企画を考え、イベントの開催をしていきます。



Jリーグが世界にチャレンジ ～Audi Football Summit powered by docomo～ @国立競技場

2023年7月26日(水)に国立競技場で開催されたAudi Football Summit powered by docomo(以下AFS)においてフィールドワークを実施してきました。AFSとは、公益社団法人日本プロサッカーリーグ(以下、Jリーグ)と株式会社NTTドコモが主催する大会で、2023-24シーズンドイツブンデスリーガ覇者のFCバイエルン・ミュンヘンと同じくヨーロッパチャンピオンズリーグ覇者のマンチェスター・シティが激突するスポーツイベントです。私たちは試合前のJリーグ サステナビリティ部が提供するアクティビティのサポートと試合観戦に行ってきました。日本最大級のスポーツイベントはどのように運営されているのか、フィールドワークを通して学んだことを報告させていただきます。

北川 快(流通学部2年)

今回の課外活動は本当に良い経験になりました。素晴らしいチーム同士の試合を見させていただくことも出来ましたし、試合までの時間にJリーグのお手伝いをさせて頂いて、見に来ているお客さんとも触れ合うことが出来たので貴重な経験ができたと思いました。

普段アルバイトでJリーグの運営をしているけれどこれだけの大きいイベントに携わったのは初めてだったので、多くの裏方さんなどによって安全に素晴らしい試合が選手はプレーでき、お客さんはそれを観戦することができるのだと感じることができた。

最初で最後かもしれないような試合を見させて頂き感謝しています。お客さんと触れ合った際、子どもとその親御さんとお話できる機会があり、本当にすごいチームが来たなと共感し、その子どもは本当に良い思い出になるなと感じました。

こういうイベントがあると子どもは良い思い出になると思うし、スポーツをしない子どもが増えている現代でちょっとでもスポーツに興味を持つきっかけになると良いと思いました。



まつばら阪南サマーキャンプを開催しました！

武内 映璃(流通学部4年生)

2023年8月1日から24日までの間に計7回、松原市の小学生を対象とした「まつばら阪南サマーキャンプ 2023」を行いました。午前は、子どもたちと私たち学生が一緒になって夏休みの宿題をしたり、トランプなどのカードゲームで交流を深めました。その後、みんなで昼食をとり、午後からは体育館で学生がコーチとなりバスケットボールやバトミントンなど様々なスポーツを楽しみました。

また、8月22日には、7月に大学の近くにオープンしたパルクールやバスケットボールの練習ができる施設の「ゴリラパーク」にもお邪魔しました。施設の方の指導のもと、約20名の子どもたちと学生がパルクールの施設を利用させて頂き、全力で鬼ごっこをしました。色々な障害物があるので普段の鬼ごっこと違う動きができてとても新鮮でした。子どもの運動能力を向上させるうえでも非常に有効な遊びだと感じました。全員で鬼ごっこを楽しんだ後は、施設内の設備をすべて見せて頂き、子どもたちは自由に好きな遊びをすることができました。

子どもたちからは「楽しかった！」や「毎回楽しみで早く次の回にきたい！」という声を頂きました。このサマーキャンプを通して、子どもたちの成長を感じると共に、子どもたちと関わった学生コーチ自身も成長を感じられる貴重な体験となりました。



まつばら阪南いきいきマルシェを初開催しました！

東谷 悠司(流通学部3年生)

2023年9月2日と3日の2日間で阪南大学本キャンパスにて初開催となる「まつばら阪南いきいきマルシェ」を開催しました。また、同時に関西学生バスケットボールリーグ2部の公式戦も行われました。バスケの関係者を含めて各日400名程度の方が来場してくださいました。

今回のイベントは、子どもから高齢者の方がいきいきと楽しく身体を動かすことを目的とし、約10名の学生スタッフと教員2名で、子どもが自由あそべるコーナーやモルック体験コーナーを運営しました。その中で、私は小さいお子さんには目線を合わせてボール遊びやモルックをしたり、80歳の女性と一緒にキッチンボールをして自分自身にとっても非常に有意義な時間を過ごすことができました。

また、松原市でとれた美味しい野菜(まったら愛っ娘)の販売やキッチンカーの出店もあり、来場者やスタッフと交流しながら美味しい食事を楽しみました。午後からは、阪南大学バスケットボール部の選手の気迫溢れるプレーを近く観戦しながら、応援で会場を盛り上げることができました。

今後は、9月30日に開催する2回目の「まつばら阪南いきいきマルシェ」に向けて前回よりも良いイベントにするために、学生が中心となって子どもから高齢者の方まで楽しく身体を動かせる企画を練っていく予定です。



阪南ナイト in 北海道栗山町を開催しました！

宮武 宏次(流通学部4年生)

2023今年2月の活動に引き続き、4年生6名で9月14, 15日に北海道の栗山町の関係人口を増加させるためフィールドワークを行いました。今回は栗山町の方々と協力し、私たちがイベント企画をさせて頂きました。その名も「阪南ナイト」。元々、栗山ミステリーパーティーというイベントがあり、町内在住の若者の交流の場として開催されていました。その特別版として、今回の阪南ナイトを開催しました。

イベント内容は、私たちが作った関西名物のたまごせんべいとたこやきせんべいを食べながら、モルック大会で交流してもらう、という企画です。たまごせんべいもタコ焼きせんべいも大変好評でしたし、参加者全員がモルックを楽しんでくれて、参加者から「すごく濃いイベントだった」とのお声を頂きました。

前回、今年の2月に実施した北海道栗山町でのフィールドワークでは、栗山町ならではのワークショップ「雪板制作」を体験し、それを基に栗山町の関係人口を増やすための方策を学生たちで検討しました。今回は、その経験を活かして、実際に学生たちが中心となって町民を対象としたイベントを開催しました。2月と同様に、私たちが暖かく迎えてくださった栗山町の皆さまに感謝しています。今後は、この活動を後輩に引き継いで、これからもこの地域の関係人口の増加に貢献し続けて欲しいです。



オリックス・バファローズ ファーム(2軍)公式戦にて フィールドワークを実施しました！

石田 隼将(流通学部3年生)

私たち江原ゼミは、9月2日土曜日に行われたオリックスバファローズvs阪神タイガースの観戦調査を行いました。激しい暑さのもと行われていたのにも関わらず多くの観戦者がいました。

2軍の試合ではありませんでしたが、リーグ2連覇を果たしたことで、人気上昇し多くのファンの方が来場していました。新たなファン獲得のためにもオリックスを知ってもらい、今以上に好きになってもらうためにも様々なテーマを決め、アンケートを作成しフィールドワークを行いました。

今回は150件を目標とし調査を行いました。目標には届かず115件でした。その中で結果集計を行い、オリックスファン獲得のため、チーム向上のために何が必要になるかをテーマに沿って良い発表がしていけるように準備していきたいと思えます。

藤井 暖人(流通学部3年生)

私たちは9月2日にオリックスバファローズvs阪神の試合において観戦者調査を行いました。

今回はリーグ2連覇を果たし、人気上昇している中で新しいファンの獲得、これまでのファンや新しくできたファンにもっとオリックスを好きになってもらう、「オリックス沼」に嵌まってもらうためにはというテーマでアンケート用紙を作成し、フィールドワークを行いました。

今回も2軍の試合の調査を行いました。非常に気温が高い中でしたが、オリックス、阪神ともに優勝の期待があり、オリックスに関しては前身の阪急以来46年ぶりの3連覇がかかっていたこともあり、昨年度よりも多くの方が足を運んでいました。

これからはこのアンケート結果を集計し、オリックスファンになってもらう、「オリックス沼」にはまってもらうためにはなにが必要かを考え、オリックスバファローズへの発表の準備を進めていきたいと思えます。



まつばら阪南コマなし自転車教室を開催しました！

前田 純(流通学部4年生)

2023年10月21日に阪南大学で松原市の子ども達を対象にした「まつばら阪南コマなし自転車教室」を開催しました。このイベントは、子どもが補助輪なしの自転車に乗れるようになることを目的としています。

今回のイベントは、年中から小学校3年生までの21名に参加して頂きました。子ども1人あたり約40分間、必ず1人の学生スタッフがついて安全に留意しながら乗り方を指導する形を3回実施して全ての子どもにコマなし自転車に乗れるようになる機会を提供しました。その結果、コマなし自転車に乗れなかった19名のうち6名が乗れるようになりました。

私は、受付とイベント全体の様子を見て学生スタッフに指示を出す全体統括を担当しました。初めは、順調に役割をこなしていましたが、1回目から2回目に移る際にタイムスケジュール通りに進めれず、参加者を待たせてしまう事になりました。それでも、焦ることなくイベント全体の時間を延長して対応したことで、全参加者に安全に自転車教室を楽しんでもらうことができました。

自転車教室終了後に、保護者に回答して頂いたアンケートに「子どもが楽しんでいた」、「時間を延長して教えて欲しい」などの声を頂きました。これらの声を参考にしてより今後も良いイベントを実施していきます。



大阪まつばら名物「かも焼き」を販売しました！

仁尾谷 昴正(流通学部2年生)

2023年11月11日と12日の2日間、松原中央公園にて、南大阪最大級の地産地消フェア「まつばらマルシェ」が開催されました。私達は、「大阪まつばら名物かも焼き」の販売と「まつばら阪南モルック体験会」を開催しました。

私が担当した大阪まつばら名物かも焼きの販売ブースでは、松原青年会議所と学生が共同開発した、かも焼きをマルシェに来てくださったお客様に振る舞いました。

今回のかも焼きは、松原市の名産である「有限会社ツムラ本店(協賛)」の高級合鴨の河内鴨のガラからとった出汁を加えた生地を焼き、出汁がきいたスープに入れて明石焼き風にして召し上がって頂きました。2日間で約550人前を提供することができ、大盛況でした。食べてくださったお客様からは、「大変おいしい」とのお声を多く頂き、とても嬉しく感じております。

今回のイベントを通じて、お客様に商品を提供する接客力や商品を売るセールストークを学ぶことが出来ました。今後も多くのイベントに参加し、学べる機会を増やしていきたいと思っております。



HANNAN UNIVERSITY 阪南大生 × JCI松原が開発

大阪まつばら 名物かも焼き



松原市の名産のひとつ「ツムラ本店の河内鴨」の
出汁を使った粉もん「かも焼き」を開発しました！



明治三年創業
最高級国産合鴨肉
河内鴨取扱店

河内鴨ツムラ本店

6個入り 400円

明石焼きのように、美味しい鴨の出汁
に浸して召し上がって頂きます！

※今回は鴨肉は入っておりません。



まつばら阪南のびのびあそびフェスティバルを 開催しました！

東谷 悠司(流通学部3年生)

2023年11月18日に阪南大学の本キャンパスにて松原在住の小学生3年生以下を対象とした「まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル」を開催しました。本イベントは、子どもたちがのびのびと身体を動かすことを目的とし、子どもとその保護者含め、約80名の方に来場して頂きました。

今年のイベントは雨が降っていて屋外で開催できなかったもので、屋内施設でトランポリンや自由遊びを楽しんでももらいました。それと、初の試みとして松原市にあるスポーツ施設Gorilla Parkのスタッフが来てくださり、様々な障害物を置いて普段は体験することができないスペシャル鬼ごっこコーナーを運営して頂きました。

また、運動やスポーツだけではなく、松原でとれた美味しい野菜(まったら愛っ娘)や、大学の近くにある洋菓子屋SAVORYの焼菓子、市内の有名和菓子屋の吉乃屋さんのお菓子を販売しました。さらに、キッチンカーにも出店してもらって、子どもと学生スタッフが交流しながら美味しい食事もしました。初めて会う学生スタッフ同士もスポーツや食事を通して楽しく交流することができました。

来年は、今回よりも良いイベントにするために、来場者に記入してもらったアンケート結果を分析して、もっと子どもがのびのびと身体を動かして、楽しんで頂ける機会を提供していきたいです。



リノベーションキャンプ in 淡路島を開催しました！

岸田 龍平(流通学部4年生)

2023年11月28、29、30日に兵庫県淡路市にある「淡路Reベース369」でリノベーションキャンプを開催し、流通学部と国際観光学部の学生計7名が参加してくれました。ここは、5月に実施したサイクリングツアーで泊まった宿泊施設です。まだリノベーションが終了していないので、今回は、その手伝いをするために再訪しました。

初日は、映画鑑賞用の部屋に最新の音響機材を運ぶなど、専門家がサウンドデザインをするための手伝いをしました。その後は、「淡路Reベース369」を運営する株式会社須磨北造園土木の席定社長と、お知り合いの経営者5名による勉強会に参加しました。これまで聞いたことがない話が聞けたり、私達の質問にもたくさん答えて頂き、大変勉強になりました。

2日目は、午前中はリノベーションの手伝いをして、午後から株式会社須磨北造園土木の本社にお邪魔しました。そこでは、会社の公式TikTokに載せる「究極の2択：若者が就職するにあたって大事にしている事」の動画の内容について打ち合わせした後に、実際に動画の撮影をしました。

最終日は、朝から昼頃まで廃材の処理や掃除をして帰阪しました。今回、このようなイベントに初めて参加してみて、リノベーションは思っていたより大変でしたが、普段は経験できない作業やお話しすることがない方と出会えて、大変有意義な機会になりました。私は4年生なので、このリノベーションの手伝いをするのは最後になると思います。今後は、後輩たちも積極的に関わってもらって、この「淡路Reベース369」をさらに良い施設にしてもらいたいです。今から完成が楽しみです。



オリックス・バファローズ主催マーケティングプレゼンテーションにて研究発表を行いました。

本件は、オリックス野球クラブ株式会社と連携している8自治体と7大学が産官学連携事業として、各自治体で開催される2軍公式戦に担当大学が観戦者調査を行うものです。本学は、富田林市教育委員会より調査依頼を受け、2023年9月2日に富田林バファローズスタジアムにて観戦者調査を行いました。

今回は、2023年12月10日に大阪商業大学を会場とし、各大学が担当した地域で実施した調査結果を分析し、地域住民やファンに対するサービス向上に繋げる提案などの発表を行いました。学生たちにとっては、発表した分析結果や提案内容に他大学の学生、教員、自治体関係者、オリックス関係者から鋭い質問や厳しい評価を受け、多くの刺激をもらう機会となりました。これらの経験を今後のゼミ活動に活かしてもらいたいと考えております。

研究発表会に参加した学生に当日の様子を報告してもらいます。

河内 完太(流通学部3年生)

私たち江原ゼミは、オリックス・バファローズさんからの依頼を受け「ファーム戦を使って、Z世代をオリックス沼にはめる方法」というテーマで半年間ゼミ活動を行ってきました。

その活動結果を、オリックス・バファローズさんの職員の人たちに報告をするために12月10日に大阪商業大学さんにて8大学合同での、「第10回マーケティングプレゼンテーション」という合同発表会に出席しました。

他大学さんの発表聞き、私たちにはなかった考え方や興味深い研究結果があり、私自身も刺激を受ける発表が多くありました。私たちも発表させてもらいましたが、他大学さんからや他大学の先生方、オリックス・バファローズさんのスタッフさんからのご意見を今後のゼミ活動にも活かしていけるように自分たちで考えていきたいなと思いました。



チャレンジド・サッカー教室を高見の里グラウンドにて開催しました。

サッカー部では、公式戦や練習時間の合間を縫って、様々な形で地域貢献活動を行っております。今回は、知的障がい者サッカークラブ「大阪LAZZO」様をお招きし、本学高見の里グラウンドにて「チャレンジド・サッカー教室」を行いました。

「チャレンジド」とは、「障がいを持つ人」を表す新しい米語「the challenged (挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人)」を語源とし、障がいをマイナスとのみ捉えるのではなく、障がいを持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こう、という想いが込められた言葉です(社会福祉法人プロップ・ステーションHPより引用)。

今回は、副顧問の上赤坂が指導を行い、大阪府社会人リーグ所属「阪南FC」の学生が中心となってサポートに入り行われました。学生にとっては、普段から情熱を注ぐ「サッカー」というスポーツを通じ、新たな学びを得る機会となったと思います。

佐藤 大哲(流通学部2年生)

今回、大阪LAZZOさんの練習をサポートをする中で、沢山の方とコミュニケーションをとり、サッカーの楽しさ、喜びを分かち合うことができました。この活動で自分自身、今できることを最大限にやることの大切さを改めて学ぶことができました。この貴重な経験を活かして、より一層の成長できるよう頑張っていきます。



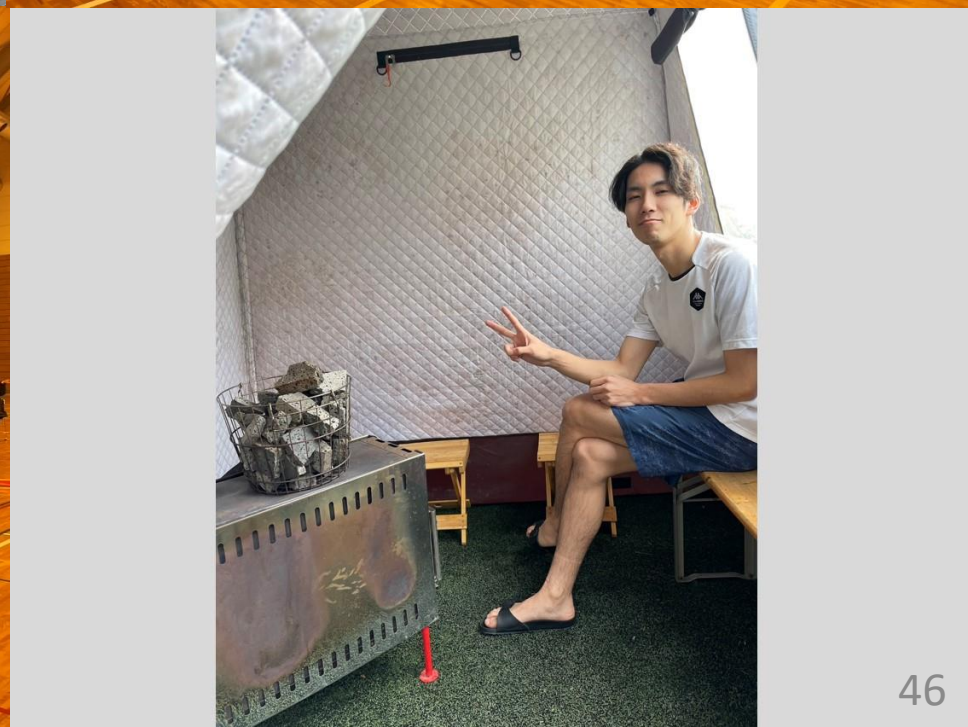
ミズノ流忍者学校とテントサウナ体験会を開催しました！

前田純(流通学部3年生)

2024年1月20日に阪南大学で開催した「まつばら阪南いきいきマルシェ」の中で、ミズノスポーツサービス株式会社が提供している「ミズノ流忍者学校」を実施しました。このミズノ流忍者学校は、「親子で楽しめる！ 忍者の修行に見立てたあそびプログラム」で、全国各地で普及活動が行われています。

今回、このミズノ流忍者学校を手伝うにあたって学生は事前にミズノスポーツサービス株式会社が認定している「プレイリーダー3級」の講習会に参加しました。プレイリーダーとは、子どもに運動あそびを通じてすこやかな発育を支えるエキスパートのことです。その資格を得るため私たち学生は、オンラインでの約3時間の講習会を受けてから、別の日に90分の実技講習を受けました。

イベント当日は、約90分のプログラムを3回運営して、約40名の子どもに忍者になりきって遊び機会を提供しました。今回は、事前に講習を受けたことで、そこで学んだことを活かしてイベントを盛り上げ、いつも以上に子どもに楽しんでもらうことができました。これからも、座学と実践経験の相乗効果を意識しながら、子どもたちに身体を動かす楽しさを伝えていきます。



まつばら阪南障がい者サッカースフェスティバル

2024年1月21日(日)に流通学部赤阪ゼミ、上赤坂ゼミ、サッカー部と有志のメンバーにより、「第1回まつばら阪南障がい者サッカースフェスティバル」を開催しました。参加チームは大阪で活動する知的障がい者サッカークラブの「大阪LAZZO」、聴覚障がい者サッカークラブの「大阪アジアントールFC」、そして静岡で活動する「アレスグート」の計3クラブで、阪南大学本キャンパスに集まりました。試合は8人制のルールで実施し、各チームの総当たり戦後は、出場チーム選抜と運営スタッフの学生選抜チームによるエキシビジョンマッチも実施しました。赤阪ゼミの学生は運営を担当し、サッカー部の学生は審判員を担当しました。当日の様子をご報告いたします。

北川 快(流通学部2年)

学生だけで企画し運営できて良い経験になりました。思ったよりもスムーズに進行して、参加してくれた選手も全力で試合してくれて嬉しかったです。やって良かったなと感じました。第2回は今回を活かしてさらに良い大会を運営できたら良いなと思います。

杉森 隼人(流通学部1年)

今回、このようなイベントに参加させてもらってとてもいい経験ができました。一からこのようなイベントを作る大変さやスケジュールの組み方などこれからゼミ活動をしていく中で必ず必要になってくるようなことばかりでした。その中で自分がリーダーシップをとって周りを見て気を配りみんなが楽しくなるようにしていこうと思いました。



沖永良部島で「えらぶ阪南農業合宿」を開催しました！

仁尾谷 昴正(流通学部2年生)

2024年2月21日から3月6日まで鹿児島県にある沖永良部島で「農業合宿」を行いました。スポーツマネジメント部に所属する流通学部と国際観光学部の学生計6名が参加してくれました。このイベントを開催するにあたって、えらぶ島作り事業共同組合の金城さん、フリーランス農家の小葉松さんの多大なるご協力のもと実現することができました。

私は、「沖永良部島で1番マンゴーが美味しい」と言われている「田中マンゴー園」のマンゴー園とじゃがいも畑での仕事を体験させて頂きました。マンゴー園での仕事は、夏頃に収穫するマンゴーの木の邪魔になる茎を折るという作業を行いました。じゃがいも畑では、トラクターで掘ったじゃがいもを選別しトラックに乗せていく作業を行いました。大変な農作業中に見える島ならではの景色や休憩時間に農家の人と一緒に食べるご飯の味は忘れられない思い出になりました。

今回の農業合宿を通して農業の魅力と大変さに触れたことで、これからはじまる就職活動で農業に関わる仕事について調べてみようと思いました。次回は、マンゴーの収穫期の夏頃に手伝いに行って、沖永良部島で一番美味しいマンゴーを味わったり、綺麗な海で泳ぐなど島の夏の魅力を満喫しに行きたいです。



北海道栗山町でのフィールドリサーチの 成果報告会を開催しました！

諫山 清志(流通学部3年生)

「北海道栗山町の関係人口を増やす方策」を検討するべく、数年にわたる先輩方の活動や経験を引き継ぐ形で、3年生3名で2024年2月13日から16日まで同町でフィールドワークを行いました。

今回のフィールドワークでは冬ということもあり、主に「雪板滑り」と「雪上モルック」などのウィンタースポーツを体験させて頂きました。雪板滑りでは、ちょうど1年前に先輩たちが手作りで作成した個性豊かな雪板を使用して滑りました。初心者でも数回練習すれば楽しく滑ることができました。また、自分たちで雪の坂道やコブを作って難易度を調整するとより向上心が湧いてきて、何度も挑戦したくなりました。

雪板滑りや雪上モルックを体験した後は、今回のフィールドスタディの目的を果たすために、栗山町の役場の原田さんと本学の卒業生である地域おこし協力隊の北山先輩の前で1人ずつ発表を行いました。その中で3人とも強調したのが町民の暖かさです。この栗山町の人々の良さを活かした「SNSの運用」や、実際に街に来てもらうための「イベントの運営」などが関係人口を増加させるカギになると考えました。

先輩たちに続いて、今回、私たちも暖かく迎えてくださったことにとても感謝しております。2024年度の夏にも今回と同様のメンバーでフィールドワークを行う予定なので、栗山町の魅力をさまざまな人により一層知ってもらうとともに、さらなる関係人口の増加につながるよう引き続き地域おこしに協力していきたいです。



サッカー部女子チーム記念マッチゲーム を行いました。

サッカー部女子チームは、4月6日(土)に行われた新入生オリエンテーションの特別企画として、関西学院大学女子サッカー部をお招きし、記念マッチゲームを開催しました。これは、本学の第一グラウンド(人工芝)リニューアルのお披露目を兼ねており、天候にも恵まれ素晴らしい環境で試合が行われました。

スポーツマネジメント部学生の皆さんのご協力をいただき、気軽に観戦できるスペースの設置を行いました。このような準備のおかげもあり、記念マッチゲームの際には多くの新入生が観戦に訪れ、たくさんの注目を集める中でプレイをすることができました。

また、本学経営学部准教授であり、日本サッカー協会1級審判の赤阪修先生に主審を務めて頂き、緊張感のある引き締まった試合を行うことができました。トータルスコアは3-3と勝ち切る事が出来ませんでしたでしたが、たくさんの方々のご協力のおかげで、素晴らしいスタートを切ることが出来ました。

今後は、初めての公式戦となる関西学生女子サッカー春季リーグ開幕戦に向けて準備してまいります。春季リーグは2部からのスタートとなりますが、秋季リーグでは1部に昇格し戦えるよう、高い目標を掲げ達成すべく日々のトレーニングに励んでいきたいと思ひます。



サッカーC級指導×トップレフェリー 副審トレーニングを実施

サッカーのピッチに立てるのは選手22名と審判員4名（主審1名、副審2名、第4の審判員1名）のみです。サッカーの試合は審判員がいないと始まりません。そんな審判員たちは普段どんな準備、トレーニングをしてピッチに立っているのでしょうか。

今年から開講された(公財)日本サッカー協会C級指導者資格取得の講義(担当:上赤坂佳孝准教授)とトップレフェリーたちが協働し、副審のトレーニングを行いました。

荒木 七瑠(流通学部3年)

私は今までサッカーの試合を見る際はプレーのところを特に重視していました。しかし、今回生で国際的に審判をされている方たちの姿を見て交差する際の判断の難しさを知りました。そして、改めて審判の面白さを知ることが出来たのでまた試合を見る価値観が変わりました。

藤川 隼之輔(流通学部3年)

国際審判の方のオフサイドの判定について、実際に複数のシチュエーションでの判定を観てみて凄さを実感しました。実際に自分もやってみたところ、感覚的にしか判断出来なかったけど、国際審判の方は足が残っているや、空間が空いているなどの表現で、一瞬で鮮明にその状況を判断していたので驚きました。



阪南大学スポーツマネジメント部



2016年に設立した体育会クラブです。

<活動目的>

学生や教職員、地域の人々にスポーツをする・みる機会を提供する。

公式戦で勝つために日々練習するのではなく、自分が楽しむために部員自身でやりたいスポーツのイベントを企画して実践する全国的にも珍しい部活動です。

<定期的に行っている活動>

朝サル、ひまスポ、夜バス



一般社団法人まつばら阪南大学スポーツクラブ



2022年10月に設立した「持続可能な循環型スポーツクラブ」を目指しているクラブです。

中長期的な視点でアスリートやスポーツ愛好者を育てるために、競技スポーツの発展と生涯スポーツの普及を融合した育成計画に沿ってクラブを運営します。

ここで育った子どもが、将来、高校生や大学生、社会人になってクラブの運営に携わってくれる。それが私たちが目指す「持続可能な循環型スポーツクラブ」です。

クラブのフィロソフィー

過去への感謝、未来への責任

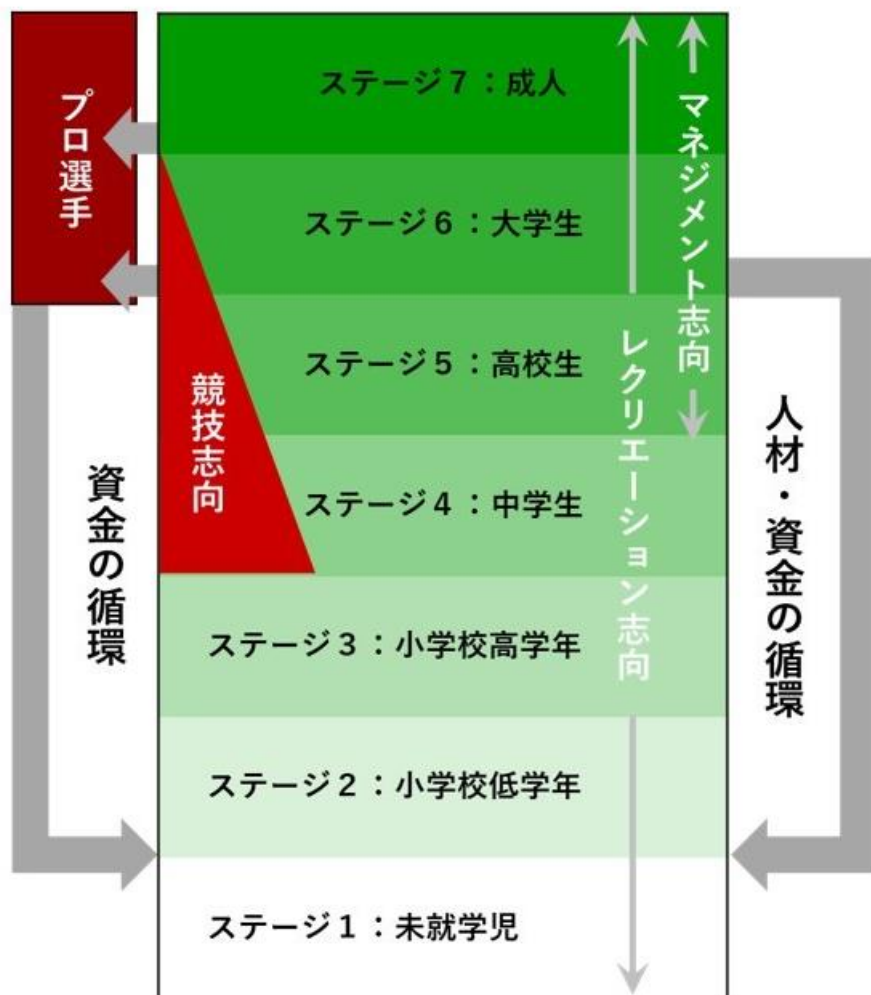
私たちが、これまで受けてきた恩に感謝し、少なくともそれと同等、できればそれ以上のものを次世代に伝えていきます。

過去への感謝

未来への責任



持続可能な循環型スポーツクラブの育成計画①



競技スポーツの発展と生涯スポーツの普及を融合した育成計画は7つのステージで構成されています。

ステージ1

主に0歳から小学校に入学する前の子どもを対象にして、さまざまな運動遊びをする機会を提供します。

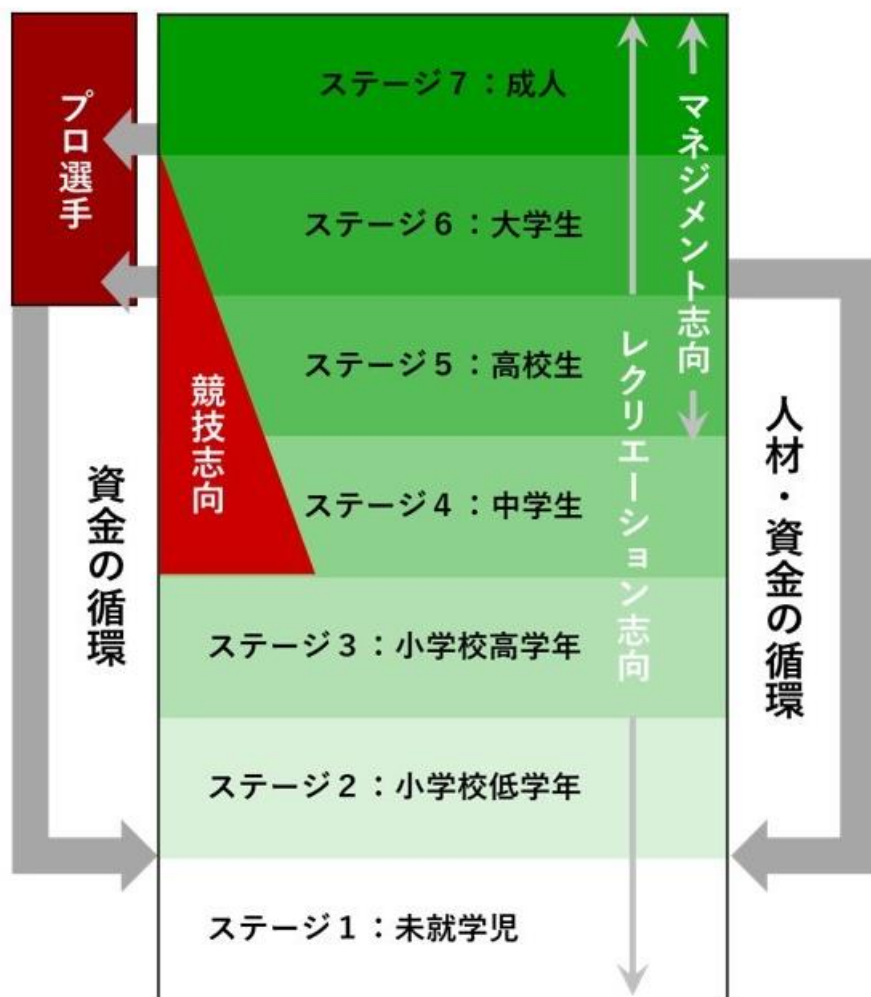
ステージ2

小学校低学年くらいの子どもの対象に、ステージ1と同様に運動遊びも楽しみながら、各種スポーツで求められる多様な動作スキルの獲得を目指します。

ステージ3

小学校高学年くらいの子どもの対象に、複数のスポーツを楽しめる機会を提供します。

持続可能な循環型スポーツクラブの育成計画②



ステージ4

主に中学生を対象として、競技力向上を目指す「競技志向」と、単純にスポーツを楽しむ「レクリエーション志向」の需要を満たすための機会を創出します。

ステージ5, 6

高校生(ステージ5)と大学生(ステージ6)を対象として「競技志向」と「レクリエーション志向」に加え、クラブの運営を手伝ってくれる「マネジメント志向」に合う活動を展開します。

ステージ7

社会人や高齢者らが世代の垣根を超えて、自分の体力や志向性に合ったスポーツ活動に参加できる環境を整備します。

スポーツ庁の委託事業に採択されました！ 「まっばら阪南大学マルチスポーツチャレンジ」

2023年8月、阪南大学は、スポーツ庁の委託事業として一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）より公募のあった、令和5年度「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」に採択されました。

当該事業は、大学が有する豊富なスポーツ資源（人材、施設、教育・研究、部活動の成果など）を有機的かつ複合的に活用し、自治体が抱える地域の課題を解決する持続可能なモデル事業を大学が主体者として実施するものです。

本学の拠点とする松原市は、今後も人口減少、少子・高齢化が予測される地域であり、20～30代の働き盛り世代の人口流出が顕著で、運動・スポーツ指導者の不足によって地域住民の運動習慣が低下しています。

そんな松原市に唯一存在する大学が本学であり、本学は豊富なスポーツ施設を有し、運動・スポーツに関する専門的知識も持ち合わせている教員も多数在籍しています。また運動部は多くのプロアスリートや世界大会出場選手を輩出しています。本事業では阪南大学が中心となって自治体や地元企業と連携し、地域の運動・スポーツに関する種々の課題解決に取り組めます。

そこでは中長期的な視点に立ってアスリートやスポーツ愛好家を育てるための育成計画に沿って事業を推進してまいります。当該育成計画は未就学児から成人まで7つのステージで構成され、各年代のニーズに応じたさまざまな運動や遊び（マルチスポーツ）の機会を提供していきます。

採択大学一覧

<Aタイプ>

(既に全学的な取り組みになっている大学)

鹿屋体育大学
福岡大学
立命館大学

<Bタイプ>

(将来的に全学的な取り組みになる大学)

公立大学法人旭川市立大学
大阪体育大学
九州共立大学
国立大学法人群馬大学
国立大学法人静岡大学
公立大学法人周南公立大学
阪南大学

UNIVAS主催のシンポジウムに参加しました！

赤阪 修 准教授

2024年2月27日(火)にJAPAN SPORT OLYMPIC SQUAREで開催された[令和5年度スポーツ庁委託事業「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」](#)のシンポジウムにスポーツマネジメントコース早乙女教授、江原准教授、赤阪専任講師と学生支援課の井頭課長の4名で参加してきました。

本学の事業[「まつばら阪南大学マルチスポーツチャレンジ ～持続可能な循環型スポーツクラブの実践～」](#)も今年度採択されておりました。採択された各大学の取り組みやパネルゲストのトークセッションから学びつつ、本学の事業をポスター発表させていただき、関係者の皆様と情報交換をさせていただきました。

本事業の取り組みにあたり、連携いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今回の取り組みをさらに発展させ、阪南大学は大学スポーツ資源を生かしてさらなる地域振興に努めてまいります。本事業にご賛同いただける皆様からのご連絡を、お待ちしております。

大学スポーツ資源を活用した 地域振興モデル 創出支援事業

シンポジウム

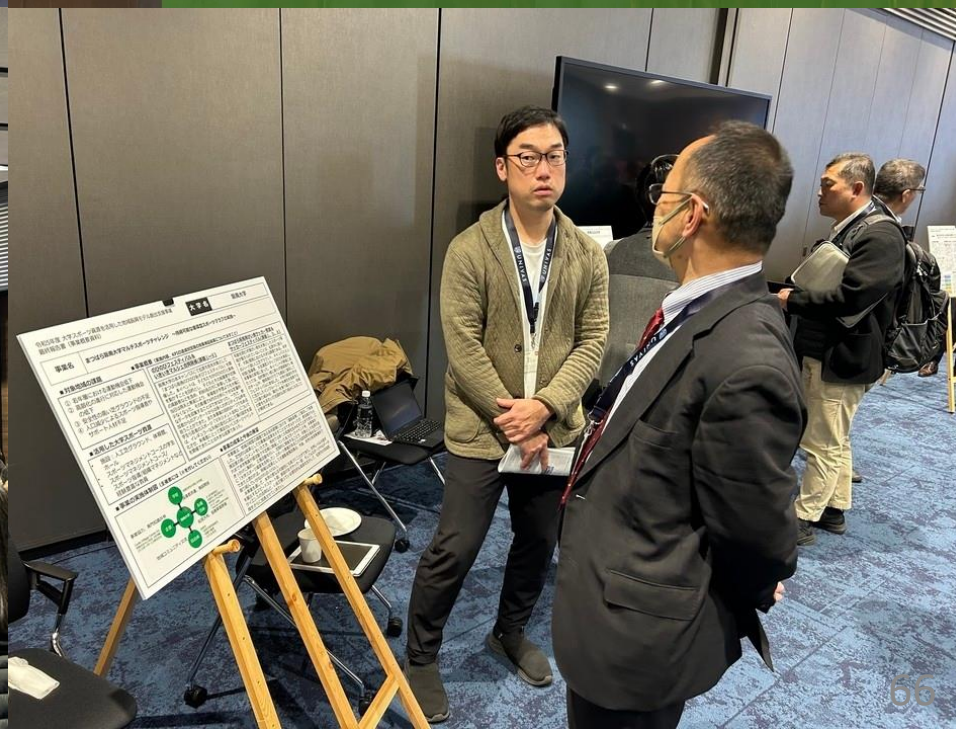
「スポーツ×地域」の可能性

令和
5年度

2024 2.27 TUE 13:00-16:00 予定
(12:30 受付開始)



【シンポジウム参加報告】
まつばら阪南大学マルチスポーツチャレンジ
～持続可能な循環型スポーツクラブの実践～





阪南大学

タイプB

対象地域：大阪府松原市

阪南大学

まっばら阪南大学マルチスポーツチャレンジ ～持続可能な循環型スポーツクラブの実践～

実施概要と目的

① 持続可能な循環型スポーツクラブの運営

[地域課題①②③④]

まっばら阪南大学スポーツクラブで様々な活動を実践した。その具体例を②以降に示す。

② まっばら阪南のびのびあそびフェスティバル

[地域課題①②]

主に3歳から9歳ぐらいの子どもの対象に自由あそびなどで楽しむ機会を提供した。

③ まっばら阪南いきいきマルシェ

[地域課題①②③]

子どもから高齢者まで、みんなが“いきいき”と運動やスポーツ、食を楽しむ場を提供した。

④ 小中学生を対象としたコーチング実践

[地域課題①④]

ダンス部とバスケットボール部のコーチや部員が市内の小中学生の指導にあたった。

⑤ みんなで楽しくリズム体操～大学生と多世代交流～

[地域課題③④]

市内の高齢者を対象に、大学のスポーツ施設を利用し学生たちによる運動イベントを実施した。

地域が抱える課題

- ① 働きざかり世代、子育て世代で運動習慣が不足^{※1}
- ② 子どもの頃からの運動習慣を継続できる環境づくり^{※1}
- ③ 高齢者の身体機能・生活機能の低下の予防に向けた支援^{※1}
- ④ 人口減少によるスポーツ指導者やサポート人材不足^{※1}

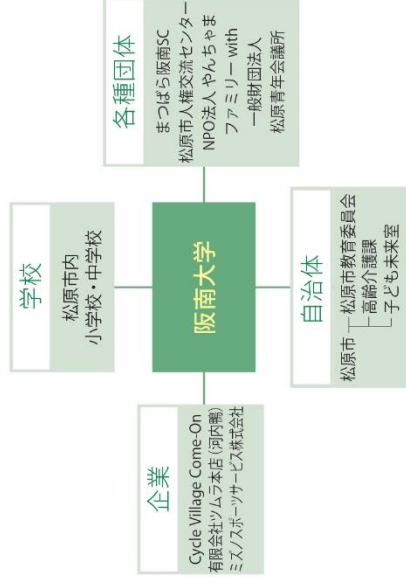
※1：第2次産業まつばら21（健康増進計画・社会福祉計画）

活用した大学スポーツ資源

本事業は、大学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

- **本学教職員（スポーツ関連専門家）**
イベントの企画・立案、イベント実施、スポーツクラブ運営、コーチング（ダンス・バスケットボール・サッカー）の各エキスパートが各所と協働して事業を実施した。
- **強化クラブを含む課外活動団体の所属する学生**
強化クラブ（バスケットボール・トランポリン・サッカー）に加えて、ダンス部やスポーツマネジメント部、そして有志の学生が本事業に賛同して活躍した。
- **阪南大学本キャンパス、高見の里グラウンド**
人工芝グラウンドと総合型体育館を備えた本キャンパス、サッカー専用の高見の里人工芝グラウンドで事業を実施した。

実施体制図



VOICE 連携団体より

子どもたちが楽しみながら体力を向上でき、安心できる「学校以外での居場所」の一つとして今後も機能し続けていってほしいと願っています。

松原市教育委員会 学校教育部
次長 矢野 智史

町の子ども達に向けた青少年事業を手伝って頂きました。学生のおかげで、たくさんの子どもが礼儀作法をはじめとした内面的成長を得ることができたと思います。

一般社団法人 松原青年会議所
副理事長 深山 大地

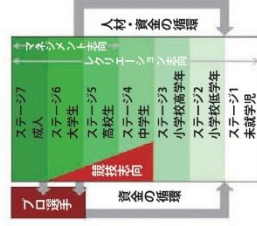
実施した具体的な事業

■ 事業1

【地域課題①②③④】

持続可能な循環型スポーツクラブの運営

「過去への感謝、未来への責任」のクラブフィロソフィーのもとで持続可能な循環型スポーツクラブを目指している一般社団法人まつばら阪南大学スポーツクラブを中心に、行政や民間企業などと連携して様々な活動を実践した。その具体例を②以降にまとめた。



■ 事業3

【地域課題①②③】

まつばら阪南いきいきマルシェ

「子どもから高齢者まで、みんなが“いきいき”と運動やスポーツ、食を楽しむ場を提供する」を目的として、計5回実施した。屋外イベントのため天気によって来場者数にばらつきがあったが、平均すると200名程度が参加した。会場には、誰もが気軽に遊べるスペースを作ったり、松原市内で採れた美味しい野菜や、銘菓を販売するブースを設置した。特に、小さい子どもを連れて保護者からの評判が良く「近所でこういったイベントを開催してくれると大変ありがたい」といった声を頂いた。



■ 事業2

【地域課題①②】

まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル

本事業のメインイベントである「まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル」では、主に3歳から9歳くらいの子どもの対象として、自由遊びや、ダンス、トランポリンなどを楽しめる機会を提供した。参加してくれた子どもは大変楽しそうに遊んでいた。中には、開場から終了まで5時間以上滞在してくれた方もいるくらい、参加者にとって居心地の良いイベントとなった。



■ 事業4

【地域課題①④】

小中学生を対象としたコーチング実践

松原市内小学校からの依頼を受け、本学のダンス部員が小学校でダンス指導を行った。最終日は小学校の先生方に完成したダンスを披露し、沢山の拍手を頂いた。バスケットボール教室は、本学のコーチと部員が初心者と経験者を対象にバスケットボール教室を開催した。

■ 事業5

【地域課題③④】

みんなで楽しくリズム体操～大学生と多世代交流～

松原市の高齢者を対象に阪南大学のスポーツ施設を利用し、学生たちによる運動イベントを実施した。これまで準備してきた運動プログラムの成果を披露することができ、高齢者と学生の交流も大盛り上がりだった。座ったままのストレッチや脳トレを行い、最後にイベントの目玉でもあるマツケンサンバ阪南大学verを踊った。帰り際に参加者から次回も参加したいというお声を沢山頂くことができた。

結果・成果

本事業は、地域の喫緊の課題である各年齢層における「運動習慣」に特に着目して推進した。参加者からは満足度の高いコメントを頂き、現地では多くの笑顔を生み出すことができた。これまで本学教員によるゼミや部活動で不定期に開催していた各スポーツイベントを、本事業をきっかけに集約し、広報活動を行い定期的に開催することで、対象とした松原市民に「大学スポーツ資源を活用した」スポーツ事業があることの認知度を高めることができた。明確な成果としての運動習慣改善は、今後、本学の各部署横断で取り組んでいかなければいけない課題である。

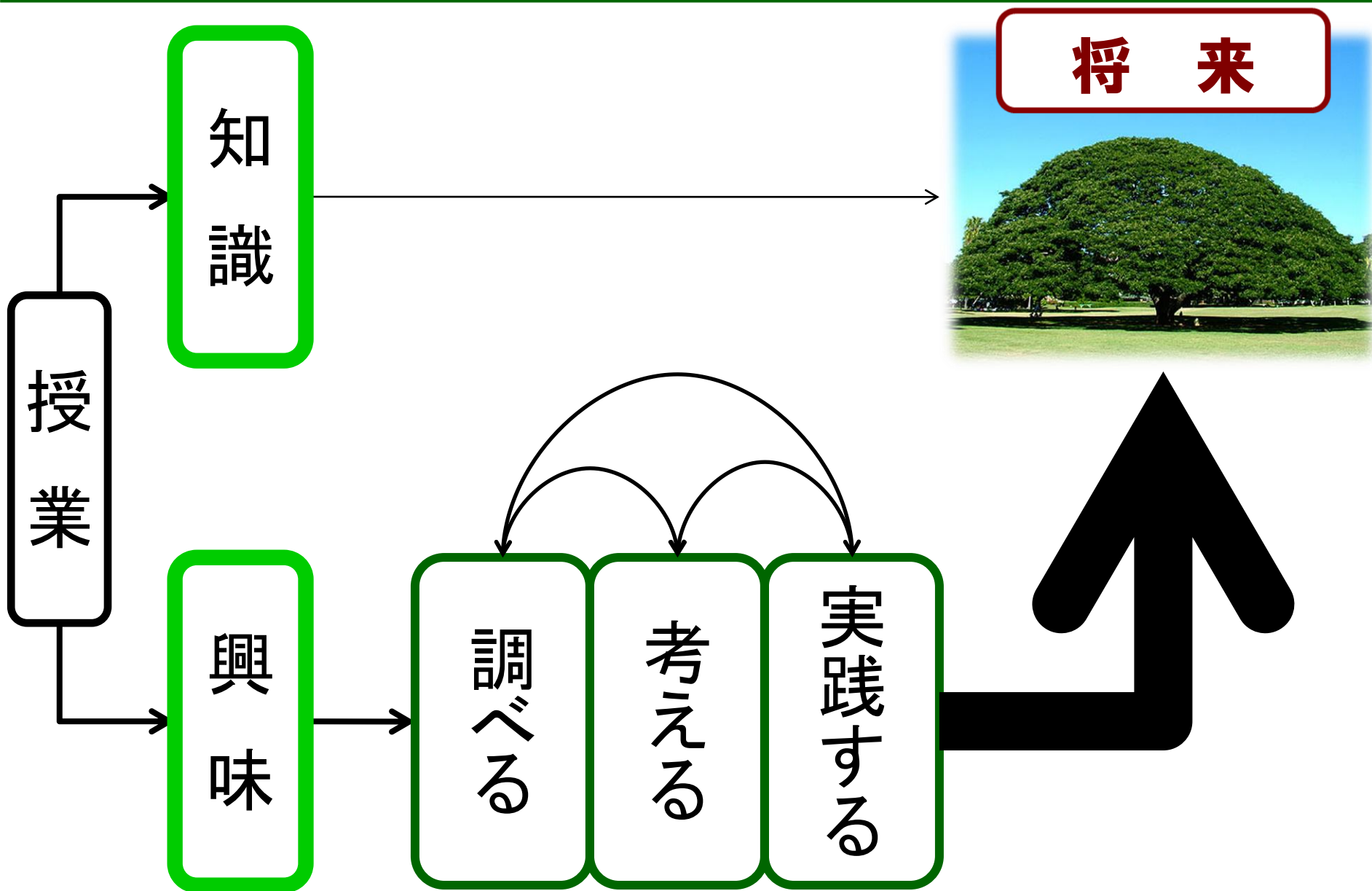
本事業の「持続可能な循環型のスポーツクラブの実践」については、強化クラブの部員が競技スポーツに関わるだけでなく、子どもを指

導する立場になってスポーツの力で地域を活性化できることを実感してくれた。またスポーツマネージメント部の活躍により、各イベントは学生を主体として実行されていった。彼ら彼女らが卒業して、今後は家族を連れて参加者として大学に帰ってこられる場を次世代の学生が創る。そんな「循環」の第一歩を今回の事業で作り出すことができた。



総括・今後の展望

本学教員のスポーツに関する専門性、強化クラブを中心とした施設とその部員、指導者、そして大学全体の理解を得て「地元松原市のために何ができるか」という問いから本事業が始まった。本事業を通して、本学の更なる潜在能力にも気づくことができた。世界レベルの選手を輩出するスピードスケート部、新設の女子サッカー部、そしてeスポーツやAIデータサイエンスの活用など、いまだ眠っている本学の潜在的な資源を生かして、松原市の地域振興をさらに加速させていきたい。



スポーツマネジメントコースで
やりたいことをやろう！

